

三五七

世色

知說奇中

七

序



人よ逢て寒暑と云ふ常
なる事。昔ふつゝる事。あま
む。あまに。あまに。あまに。
あまに。あまに。あまに。
あまに。あまに。あまに。

新波のしるしをよみよみし

あはれは只怪談よきものあり

さるるも。予の及ぶ事なむ

くあらで。忍びふちをひか

河原をくみくす。きこに

ふりて。又車み浦に。招樂

む。人きりふらふ。きこに。少

きたの。きこに。きこに。きこに

に。きこに。きこに。きこに。きこに

あ。きこに。きこに。きこに。きこに

きこに。きこに。きこに。きこに。きこに

中。きこに。きこに。きこに。きこに。きこに

己^こを^まう^ごう^りぬ^ふと^し書^り林^にに
う^いお^ふに^てう^いう^ひそ^う
あ^うへ^い

浪華亭

紀常因



此又巻ふ近世の事とてう^いなれハ。そ^ん今^も然^る事
は^あら^うも^多し。ふ^れば^いづ^れと^もう^いた^るハ。そ^のう^ち
姓^な名^なと^わく^はふ^んと^もう^いた^る事^も。但^し年^々久^く
或^は名^なと^わく^はふ^んと^もう^いた^る事^も。但^し年^々久^く
わ^りの^まに^てる^事也。ふ^ん人^のい^ふま^に

奥州^{おくしゅう}の士^し奇^き女^{にょ}と^娶め^り
妻^{さい}の怨^{おん}念^{ねん}妻^{さい}乃^は一^{いつ}言^{げん}は^服せ^る

人^{ひと}乃^は肉^{にく}と^食ひ^て僧^{そう}

浅香山^{せんざん}怪物^{かいぶつ}と^捕と^らふ

巻之二

女^{にょ}の怒^{いか}生^{せい}む^すと^崇と^なと

疊屋某家の怪異

亡魂改葬と願

清道白雲武術と争

醫師怪物を見現

越後の靈火附蓑虫鎌鼬

東漸寺乃老狸

猫滿太正宗

回國老僧の話

鑿工欺とて辱と受

卷之五

近世異説奇聞卷之一

奥州の士奇女と娶

あゆむふふ東乃れくうふ城主はけふあり
士。つゝめをさきとくうふ常はみづから其身
別強く。武休人よりえらうか。獵と好む。日
鳥銃とてみづの山狩とあそび眼よふふる
もの。即猪鹿猿狐狸のうゝひう。おこる
て樂とせらふふいふと友とすうふひ
ぐれハ同家中におれうぬ士あり。うきと中
より。二人とあそびふむ。猛獸盜賊のたぐひと

ゆきうん。ふれどいつて。もめふゆけ。終はうら
 るふんよと。はむりくらむをさるがひ
 ゆくよ。二之里もあつんとおしやうよ。はひ
 まがひうん。路は出づ。是よりいあるひ
 のくさうりそ。先にきてふ。住宅（いざや）ひ
 て。廿とばう。はちる。あづく。是にけり（母お
 けり）おまつせ。今おはうにめさる。とそ
 けり。入母はちりくのあわりて。廿とぐて。あま
 くる。めく。ど。あはけり。一夜とめさるんや
 といふ。母あて。あする。ある。い。は。方。



かゝるれー女わうてともひひあうーよ
とひ内つきて福んごうよつとらるま。
て志づくもあちうてう流るよ。何よつあ
ちも思ふ^{わろ}うど。ふれものあうぶうど。城
トよそづらーよれも。うーく思ふもの
つようんあらう。ふれ母の心ーるひ。つもの子も
いふ^{さいま}まもあもなり。かまへんとむらん
は女とそとあひて。まうーけりけもバ
男と母の心は同じく。やうて素とナ。まぬ乃中
むつまーい。母よつと人々。孝とるーくは。母も

實のむとめらうてう。年月と送るあり。
そは例乃殺せれあがら獵よ出らう。是も山路
よそぬひーにふれ朋友にうーくあうせー
ぬく。ふあひの心は布うとと女わう。そ
のうーあよとと。そ時れあよ。のうー
くあよせー女の出あも。くうーうとと
うらう。今又ふうふものよあふ。甚ふあうら
何しもせよ。あやーうれうん。そまうれく
つたま。二丸とあー火がととら。
くふんとあうと。の女志むーいふと。

七

新

1

妾の怨念毒

麋

7

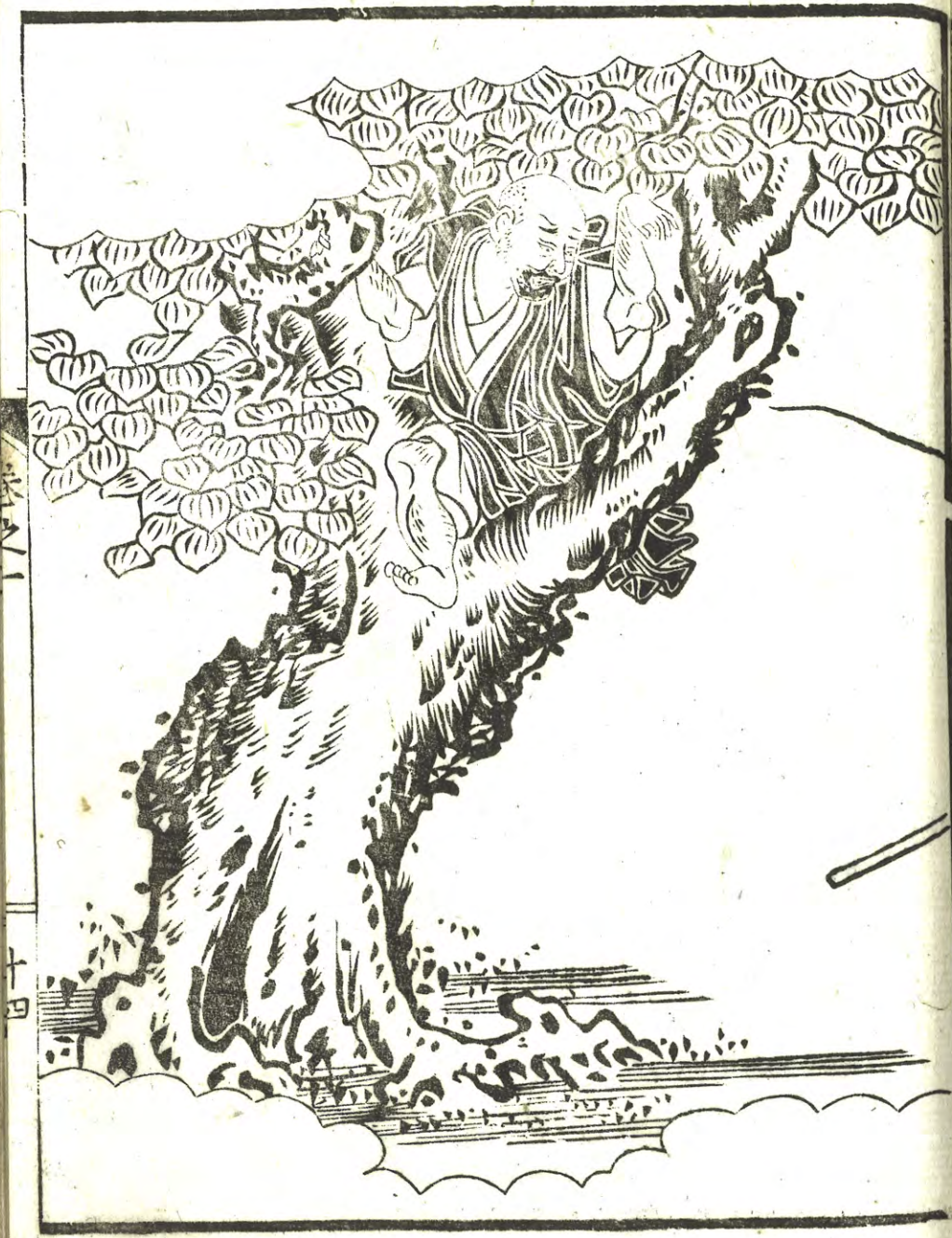
しゝわふ太宰よつゝ一士其君は従へて
美由は寓居せしが徒然は之の妾と水
をわづらひて。暇の日もさうして
うらぐ。母はふだひて。うらぐ。あまう
まゝ。一。人。時。は。と。ぐ。て。毒。に。ゆ。ん
まじ。た。も。ふ。ま。い。ひ。と。ゆ。も。れ。も。ひ。月。也。
か。う。一。に。や。ど。な。く。ゆ。ま。の。町。を。づ。ら。ん。
わ。る。町。女。は。ゆ。り。う。ら。い。め。ま。の。と。は。ま。ゆ。
む。し。い。ひ。い。ま。も。ふ。ま。な。り。ゆ。い。い。ま。い。ん。ま。
わ。ま。い。づ。も。ゆ。く。と。や。ら。い。づ。い。う。ら。く。乃。海。
山と海を一つとも。又二年の地はあり

くれいえん。そ。と。は。そ。時。と。あ。い。れ。名。姓。
う。さ。い。そ。と。ま。は。け。さ。く。と。ま。い。あ。い。
う。ら。い。え。い。あ。り。て。じ。う。ん。と。い。ん。あ。い。
こ。ん。は。ま。と。ゆ。ま。ふ。い。ま。く。と。ま。う。ま。と。時。
の。衣。服。調。度。の。料。は。た。ん。は。の。お。と。
ろ。い。れ。く。と。ま。と。ふ。ま。と。い。ひ。ま。せ。い。
は。ま。た。は。と。ま。と。て。今。ま。と。ふ。と。あ。ま。い。ま。の。
ま。あ。ま。の。む。つ。と。い。ふ。は。ら。い。う。ま。
一。さ。ま。女。心。乃。の。ま。と。ま。い。あ。い。神。

けてらひらひら。たし比翼につぐと
 連理ハ枝朽ふとも。たしもくもて
 金。此世の。い。家。で。つ。さ。い。は
 つ。さ。ら。な。れ。い。の。い。ま。も。は。い。を
 せ。い。ま。も。い。ま。も。い。ま。も。い。ま。も。
 い。ま。も。い。ま。も。い。ま。も。い。ま。も。
 て。の。さ。ら。な。い。あ。い。ま。も。い。ま。も。
 い。ま。も。い。ま。も。い。ま。も。い。ま。も。
 つ。さ。ら。な。い。あ。い。ま。も。い。ま。も。
 い。ま。も。い。ま。も。い。ま。も。い。ま。も。

け。い。ま。も。い。ま。も。い。ま。も。い。ま。も。
 い。ま。も。い。ま。も。い。ま。も。い。ま。も。
 て。の。さ。ら。な。い。あ。い。ま。も。い。ま。も。
 い。ま。も。い。ま。も。い。ま。も。い。ま。も。
 つ。さ。ら。な。い。あ。い。ま。も。い。ま。も。
 い。ま。も。い。ま。も。い。ま。も。い。ま。も。

り作樂ののり。我家の床間までく入らせ。
 大病と称し。こもり居り。あま不審にのみ。
 いろいろあざ。病根と云われ。けむいふ
 わね。始終とく。いへ。ね。あつて
 大い。う。の。こ。も。つ。ふ。む。ひ。そ。か。く
 人。と。ろ。ー。む。い。定。て。執。心。く。ひ。は。ゆ。し。ち。か
 づ。べ。い。は。あ。い。い。け。男。子。の。毒。と。め
 つ。い。常。の。ふ。ち。ふ。い。あ。る。こ。づ。き。い。と。ぬ。こ
 も。と。も。の。常。なり。は。い。と。ま。と。も。や。ん。
 て。お。の。け。と。思。う。ふ。ま。と。と。ろ。て。い。い。は。る
 と。け。い。と。ま。と。う。い。地。一。あ。と。う。ー。と
 い。ん。と。ま。と。う。い。と。う。い。は。と。う。い。死
 と。ま。の。く。理。と。う。ず。や。た。と。い。て。け。地。一
 あ。と。も。い。と。う。い。あ。わ。と。い。い。ぞ。は。か
 の。ぞ。ふ。ま。と。う。い。と。う。い。死。て。の。う。い。は
 ね。と。う。と。う。い。誠。は。思。う。と。う。い。け。こ。と
 う。と。う。い。と。う。い。と。う。い。と。う。い。と。う。い
 う。と。う。い。と。う。い。と。う。い。と。う。い。と。う。い
 く。は。と。う。い。と。う。い。と。う。い。と。う。い。と。う。い
 の。守。刀。と。ぬ。と。う。い。と。う。い。と。う。い。と。う。い



よるに、明日の日はよくてやあ。ちねは本の
ゆきとそろかゝって。ゆきとたそしとほろふ。
やりく、鶴もさだ。東の空、まじりなれ。八年つ
くまをくらひ出すみ出で。かくいふげう小
ぢりわんより。ちねもけあやめもつぐつと
やどにさりづれ。ふけ木よのかりてそめぬ
べー。ふけ木よのかりてそめぬ。
ハ。おわりてまじりふりやあかん名ゆづん
とまじりすぞ。ちねと腰よさす。ちね。
あの木へのかりえが葉のく。のとふ

不^レうくさぐさんとも。は師はいづらいとん
 ぶえぶらうまハ。名もとむううまを
 ぐり。人の肉とくひーためー。他邦^{ひとのくに}はハ易^{やす}
 才^が子と殺^{ころ}して。齊桓公^{せいのかんこう}は進めーる其外^{そのほか}
 諸書^{しよしよ}はええつてもども。我邦^{われのかう}にハいます。ゆと
 こへは倍^{けい}。輕捷^{けいせつ}してあーとくまーる
 る。ふふのふふはあーぶらー。ふふふ
 奇怪^{きがい}なりといふふー

近世異說奇聞卷之一終